

ふるさと船穂

マスカットとスイートピー、学区内にそれも一つの丘陵で全国に名を知られた園芸作物が栽培されているということは稀なことではないか。

作物の立地は、土地の自然的条件や社会的な要因が他の地域に比べ優位に立っているかどうかで決まる。自然的な条件としては、気温、日照、水利、土地の傾斜など、社会的な要因としては、消費地との距離や交通の便、生産技術の保有などがあげられる。しかし、不思議なことに船穂のマスカットとスイートピーに関しては、自然的条件も社会的な要因も、これだと特定できるほどの強みが見当たらない。

船穂の丘陵は、水はけのよい南向きの斜面で、温暖な気候と日照に恵まれている。しかし、このことは笠岡から備前に至る岡山県南の丘陵すべてにあてはまり、消費地との距離や交通の便についても同様である。生産技術の保有についても、マスカットの先進地は岡山市横井上、栢谷地区で、明治末年には栽培が行われていたから、船穂が生産技術で優位に立っていたわけではない。

船穂でマスカットの栽培がはじめられたのは、昭和20年代半ばのことで、ガラス温室、加温栽培、ビニールハウスによる傾斜地での栽培と技術を磨いてきた。スイートピーも全国的な生産量の増加によって、販売価格が低迷した時期があったにも関わらず、船穂の生産者は栽培技術を高め、市場で高い評価を得るようになった。

マスカットやスイートピーなどの施設園芸は、多額の初期投資を必要とし、投機的なものともいえる。市場の動向をみて、栽培品種を変えていくことは当然なことで、一つの品種にこだわり続けることは特異なことだと思う。私にはこのこだわりこそが船穂の優位性のように思える。船穂の人は営々と一つの品種の栽培技術を磨き、得た技術を独占せず仲間に教え、仲間とともに産地を形成してきた。また、平石地区の山頂にある給水塔は昭和43年に畑地かんがい事業によって完成した。高度経済成長の最中、他地域が工場誘致、住宅団地の造成に躍起になっている中で、船穂は農業で生きていく道を選んだ。バルブを開ければ中腹の傾斜地でも、容易に灌水できることは、大きな優位性だと言える。

一度決めたことは、目先のことにとらわれず黙々と努力を続ける。努力し続けることに最大の価値を置く。マスカットやスイートピーは、船穂の人たちの生き方が生んだように思える。

この気風は、子どもたちも持っている。今の中学2年生が始めたあいさつ運動が、一日も欠かさず続けられている。氷点下の朝に校庭で「全校の皆さんおはようございます。」と大きな声であいさつする姿は、困難に立ち向かい、信念を曲げない船穂の人の生き方に重なる。「ふるさとを愛する」子どもを育むためには、こうした船穂の人の素晴らしさを意識させ、自分もその一員であると自覚させることが欠かせないように思える。